

教科名		社会		科目名	公共	履修学年	中学	高校	2年	全	組	
単位数		2		使用教科書 補助教材等		実教出版『 公共 』						
担当者		池田巧 島崎由紀子				浜島書店『 最新図説 公共 』 授業プリント 等						
学習目標		人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。										
評価方法												
評価観点		知識・技能				思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準		現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。				現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。			よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚し、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。			
各観点の評価方法等		考查における知識問題と資料読みとり等の応用問題				考查における知識問題と資料読みとり等の応用問題 グループ協議やペアワークによる意見交換および発表 振り返りシート・レポート 等			グループ協議やペアワークによる意見交換および発表 振り返りシート・レポート 等 授業以外での活動や自発的な成果物等			
学期末の各観点比率(%)		60%				30%			10%			
授業計画												
学期	月	学習内容・単元など								時間数	評価区分1	評価区分2
1学期	4月	【 経済 】 1 章ー1 経済主体と経済活動の意義 1 章ー2 経済社会の変容 1 章ー3 市場のしくみ 1 章ー4 市場の失敗 1 章ー5 現代の企業 1 章ー6 国民所得 1 章ー7 経済成長と国民の福祉 1 章ー8 金融の役割 1 章ー9 日本銀行の役割 1 章ー10 財政の役割と租税 1 章ー11 日本の財政の課題 2 章ー10 社会保障制度の課題								8 時間	1 学期期末考査	
	5月									7 時間		
	6月											
	7月											
	8月	【 外部プログラム 】 金融経済教育「 お金の力 」								2 時間 + 8 時間	2 学期期末考査	
	2学期	9月	【 国際 】 1 章ー1 国際社会と国際法 1 章ー2 国際連合と国際協力 2 章ー3 第二次世界大戦後の国際経済 2 章ー1 貿易と国際収支 2 章ー2 外国為替市場のしくみ 2 章ー6 発展途上国の諸課題と日本の役割 2 章ー4 地域的経済統合の進展 2 章ー5 国際経済のつながりと課題									9 時間
10月		【 倫理 】 1 章ー1 青年期とは 1 章ー2 自己形成の課題(1) 1 章ー3 自己形成の課題(2) 2 章ー1 古代ギリシアの人間観 2 章ー2 科学と人間 2 章ー3 自由の実現 2 章ー4 社会を作る人間 3 章ー1 人間と幸福 3 章ー2 公正な社会をめざして										
11月		【 外部プログラム 】 ビジネスプランコンテスト「 高校生 R ng 」										
12月		【 倫理 】 4 章ー1 人間の尊厳と平等 4 章ー2 自由・権利と責任・義務								2 時間 + 8 時間	3 学期学年末考査	
3学期		1月	【 政治 】 5 章ー1 民主政治の成立 5 章ー2 民主政治の基本原理 5 章ー3 民主政治のしくみと課題 5 章ー4 世界の主な政治制度 2 章ー1 政治機構と国会 2 章ー2 行政権と行政機能の拡大 2 章ー3 公正な裁判の保障 2 章ー6 選挙制度 2 章ー7 世論と政治参加									
	2月											
	3月	※こちらに記載がない項目もテーマ学習の中で扱います※										

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究	履修学年	高校	2	選択者	組	
単位数	4 単位	使用教科書 補助教材等	山川出版社『世界史探究 詳説世界史』 山川出版社『詳説世界史図録 第5版』 浜島書店『要点整理 ゼミナール 世界史』						
担当者	高橋 美穂								
学習目標	大学入試科目として世界史探究を選択した生徒を対象とした授業。各地域・文化圏の通史的理解を深めるとともに、歴史的なものの見方や考え方を働かせ、課題を追求・解決する活動を通じて、広い視野に立ってグローバル化する国際社会に主体的に生きる資質と能力を養う。大学受験に必要な知識と技能を身につける。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	知識…各地域、各文化圏の歴史の変化に関わる諸事象について広く相互的な視野から捉えることができる。 技能…諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度及び多面的・多角的な考察や理解を通して社会人としての自覚を身に付けるとともに、多様な世界を全体として尊重する態度を身に付けている。				
各観点の授業内 評価方法等	考查における知識問題と資料読み取り等の応用問題から評価		考查における資料読みとり等の応用問題（論述問題）、ペアワークによる意見交換、発表、レポートを通じた多角的な視野での考察		振り返りシートやレポート等を通じて評価する。授業内活動だけでなく、授業外での活動や自発的な成果物なども評価の対象とする。				
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%		30%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	授業ガイダンス 世界史へのまなざし 第1章文明の成立と古代文明の特質			第1節～第4節		10	1 学期 中間 考査	第1 回到 達確 認テ スト
	5	第2章中央ユーラシアと東アジア世界			第5節 第1節～第4節		12		
	6	第3章南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章西アジアと地中海周辺の世界形成			第1節～第3節 第1節～第4節		15	1 学期 期末 考査	
	7	第5章イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成			第1節		4		
	8								
2	9	第6章イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章ヨーロッパ世界の変容と展開			第2節 第1節～第2節 第1節～第2節		11	2 学期 中間 考査	第2 回到 達度 確認 テスト
	10	第8章東アジア世界の展開とモンゴル帝国			第3節～第4節 第1節～第2節		13		
	11	第9章大交易・大交流の時代 第10章アジア諸帝国の繁栄			第1節～第2節 第1節～第2節		16	2 学期 期末 考査	
	12				第3節		4		
3	1	第11章近世ヨーロッパ世界の動向			第1節～第4節		12	学 年 末 考 査	
	2				第5節～第6節		7		
	3	まとめ			答案返却		2		

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	履修学年	中学・ 高校	2	年	全	組
単位数	2	使用教科書 補助教材等	帝国書院『高等学校 新地理総合』 帝国書院『新詳高等地図』						
担当者	矢口 陽一		とうほう『新編 地理資料』 東京カートグラフィック『地図太郎Lite』（教育GISアプリケーション）						
学習目標	多様な自然と人間の相互関係やそこから生まれた文化に注目し、現在生じている地球的課題と対峙するときに前提となる地理的な知識や考え方・見方を身につける。 また、地理的な見方・考え方を身につけるために必要な、地図・GISの読解力や統計資料の読み取り技術のといった地理的技能を身につけられるようにする。 その上で、世界から俯瞰してみた日本の特徴について考察し、災害への対応や社会問題の解決策について主体的に考え検討し自ら行動できるようになる。								
評価方法									
評価観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準	自然と人間の相互関係やそこから生じる文化に注目し、今後の対峙する必要がある地球的課題の考察に必要な地理的な知識が身につけられている。			地球的課題や社会問題と対峙するときに前提となる地理的な考え方・見方が身につく、他者に伝わりやすいような形式で表現することができる。			地球的課題や社会問題、また今後起こる可能性のある災害への対策について、自分事として捉え、それらの対応策や解決策を、主体的に考察し検討している。		
各観点の授業内 評価方法等	考查で問う知識問題・応用問題(資料読解など) 成果物(学期末課題など)の内容			考查で問う論述問題(資料読み取り等)内容 グループ・ペアワークでの意見交換・発表の内容 成果物(学期末課題など)の内容			グループ・ペアワークでの意見交換・発表時の姿勢 成果物(学期末課題など)の提出状況 小テスト・その他提出物の提出状況		
学期末の 各観点比率(%)	考查得点の 80%			考查得点の 20% + 提出課題など			平常点に加算(減点は行わない)		
授業計画									
学 期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時 間 数	評 価 区 分 1	評 価 区 分 2
		学習単元・課題			学習内容・キーワード				
1	4	ガイダンス 第1部 第1章 1節	地球上の位置と時差	緯度経度・時差			9	中 間 考 査	1 学 期 成 績
	5	第1部 第1章 2節	地図の役割と種類	統計地図・地理情報システム(GIS)					
		第2部 第1章 1節	世界の地形	大地形(変動帯)・小地形					
		第3部 第1章 1節 1	日本の自然環境(地形)	弧状列島・フォッサマグナ					
	6	第2部 第1章 2節	世界の気候	大気循環・植生・ケッペン気候区分			10	期 末 考 査	
第3部 第1章 1節 2		日本の自然環境(気候)	季節風・都市気候						
第2部 第2章 2節 第2部 第2章 1節		地球環境問題 複雑に絡み合う地球的課題	地球温暖化・脱炭素社会 南北問題・持続可能な開発目標(SDGs)						
2	7～8	【2学期末・夏休み課題】						中 間 考 査	2 学 期 成 績
	9	第2部 第1章 5節 1	世界の産業(農林水産業)	自給的・商業的・企業的農業・主食					
		第2部 第2章 5節	食糧問題	飢餓・飽食・遺伝子組み換え作物					
		第2部 第2章 3節	資源・エネルギー問題	レアメタル・再生可能エネルギー					
	10	第2部 第1章 5節 2	世界の産業(工業)	先端技術産業・情報通信技術(ICT)			9	期 末 考 査	
		第2部 第1章 5節 3	世界の産業(第3次産業)	多国籍企業・脱工業化社会					
		第1部 第2章 2節	グローバル化	貿易・交通・通信・観光					
11	第2部 第2章 4節	人口問題	人口転換・少子高齢化			10			
	第2部 第2章 6節	都市・居住問題	村落・都市形態・インナーシティ問題						
3	12	第1部 第2章 1節	国家と領域	国境・領土問題・国家群			9	学 年 末 考 査	3 学 期 成 績
	1	第2部 第1章 3節	世界の民族(宗教・言語)	公用語・世界宗教					
		第2部 第1章 4節	世界の衣食住	植民地・モノカルチャー経済					
2		第3部 第1章 2～5節	自然災害と防災	地震・津波・火山・気象災害・減災					
	第3部 第2章 1節	地域調査	地形図の読み取り						
3	3								

教科名		社会	科目名	日本史探究	履修学年	中学 高校	2年	1・3・6	組	
単位数		4	使用教科書 補助教材等		山川出版社『詳説日本史探究』 浜島書店『新詳日本史』『ゼミ ナール日本史』, 東進ブックス『日本史一問一答』など 授業プリント 等					
担当者		田畑佳介								
学習目標		歴史と文化の展開を、各時代の国際環境や地理的な条件と関連づけて、理解できるようにする。 歴史資料を基に情報を収集し、読み取る技能を身につけて、多面的・多角的に歴史的事象を考察できるように目指す。また歴史的事象を通して自ら課題を見つけ、探究する姿勢を目指す。								
評価方法										
評価観点		知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準		歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解している。また、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとしている。			歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて考察、構想したことを説明したり、議論したり、まとめたりしている。			歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が見られる。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して歴史を学ぶ人間としての自覚、歴史に対する意欲、他国や他国の文化を尊重、理解することの大切さを自覚し、行動している。		
各観点の評価方法等		調査や定期的な課題における知識問題と史資料の読み取り等、応用問題の取り組みなどを評価する。			調査における初見の史資料の読み取りなど応用問題の取り組みを評価する。授業で課されたレポートを通じて歴史への考察をまとめる、レポートを発表することなどで評価する。			フィールドワークを通じて自発的な歴史的活動を評価する。活動の振り返りシート・レポート等を通じて評価する。		
学期末の各観点比率(%)		40%			30%			30%		
授業計画										
学期	月	大項目・中項目			小項目			時間数	評価区分1	評価区分2
1学期	4月	第1章 日本文化のあけぼの			人類の出現と旧石器時代 縄文時代の社会と文化 弥生時代の社会と文化 小国の分立と邪馬台国連合			18時間	1学期中間考査	
	5月	第2章 古墳とヤマト 政権 第3章 律令国家の形成			古墳とヤマト 政権 飛鳥の朝廷、仏教の伝来 大化改新、律令国家への道			18時間		
	6月	第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進			平城時代、平安王朝の形成 弘仁・貞観文化 摂関政治、地方政治の展開と 武士、国風文化 院政と 平治の台頭、院政期の文化					
	7月	第6章 武家政権の成立			源平合戦、鎌倉幕府の成立					
	8月									
2学期	9月	第7章 武家社会の成長			武士社会 蒙古襲来と幕府の衰退、鎌倉文化 室町幕府の成立 東アジアとの交易			24時間	2学期中間考査	
	10月				惣村の形成、土一揆 応仁の乱と 国一揆 室町文化					
	11月	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と 展開			戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化 江戸幕府の成立 幕藩体制の成立			22時間	2学期期末考査	
	12月				江戸時代初期の外交					
3学期	1月				幕藩社会の構造 文治政治への移行、元禄時代 経済の発達			28時間	学年末考査	
	2月	第10章 幕藩体制の動揺			元禄文化 享保の改革 宝暦天明期の文化					
	3月									
								計107時間 (除定期考査)		